呉工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	インターンシップ

科目基礎情報

科目番号	0026	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 10
開設学科	プロジェクトデザイン工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	前期:20
教科書/教材	事前研修はプリント配布、実習先で配布される学術図書等		
担当教員	野村 高広,横沼 実雄,堀口 至,間瀬 実郎,大和 義昭		

到達目標

１．社会人として必要な自主性、創造性、社会性等の基本を身につける
２．実習計画に沿って実習を行うとともに実習日誌の作成を通して日々の実習内容を振り返る
３．インターンシップの成果を報告会で報告できる
評価方法　学外実習機関の指導責任者による所見および実習報告書５０%、実習発表会５０%で評価
評価基準　達成目標の６０%以上が達成できていると総合的に判断すれば合格とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	社会人として必要な自主性，創造性，社会性等の基本を身に付け，インターンシップに十分に活用できる	社会人として必要な自主性，創造性，社会性等の基本を身に付け，インターンシップにある程度活用できる	社会人として必要な自主性，創造性，社会性等の基本を身に付けることができないあるいはインターンシップにほとんど活用できない
評価項目2	実習計画に沿って適切に実習でき，実習日誌を十分に活用して実習内容を振り返ることができる	実習計画に沿って実習でき，実習日誌を使って実習内容を振り返ることができる	実習計画に沿った実習がまったくできない，あるいは，実習日誌を作成できていない
評価項目3	インターンシップの成果について，報告会において優れたプレゼンテーションで報告できる。	インターンシップの成果を報告会で報告できる	インターンシップの成果を報告会で報告できない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 専攻科の学習・教育目標 (SD)
JABEE 環境都市（H）

教育方法等

概要	これまで学修してきた専門分野に対応する校外実習機関（企業や大学等）において、専門分野に関連する実習を行い、技術に対する社会の要請を習得するとともに学問の意義を認識し、エンジニアとしての自主性を養成する。インターンシップ前に社会人として必要な自主性、社会性の基本を身に着けるため、事前研修を行う。【複数教員担当方式】 この科目は校外実習機関（企業や大学等）において、実習形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	学内にて事前教育を行った後、学外機関にて実習を行う。 【自学自習の実施内容と確認方法】この科目は学修単位科目のため，インターンシップに関する書類の作成，事前研修レポート課題，インターンシップ期間中の実習日誌，報告会プレゼンテーション資料の内容により学習状況を確認する。 【新型コロナウイルスの影響により，授業内容を一部変更する可能性があります．】
注意点	インターンシップ機関の選定は将来就職したい会社・職種を選ぶこと。 実習期間中は傷害保険に必ず加入すること。学問と生産の関係を体験することにより自己能力を開発する基礎を養うことを望む。 派遣先での実習は5月9日以降～７月下旬とし、履修実時間数は１日８時間、週５日の場合9週間以上とする。 履修実時間数360時間以上のインターンシップ期間を満了しない場合は評価は行わない。上記履修時間数には、インターンシップ報告会(報告書作成等を含む最大８時間)を含めることができる。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	インターンシップ概要説明と実習先決定	実習概要、実習先の調整、受け入れ条件把握
		2週	インターンシップ事前教育・研修	社会人として必要な自主性、創造性、社会性等の基本を身に付ける
		3週	インターンシップ機関での実習実施	実習先から要求された必要知識を予習する
		4週	インターンシップ機関での実習実施	実習内容を習得するとともに自主性を養成する
		5週	インターンシップ機関での実習実施	実習日誌の作成を通して日々の実習を把握する
		6週	インターンシップ機関での実習実施	インターンシップ機関の責任者と連携して教育する
		7週	インターンシップ機関での実習実施	・機械工学分野の学生は機械工学系の職務内容を行う。
		8週	インターンシップ機関での実習実施	・電気情報工学分野の学生は電気電子工学系の職務内容を行う。
	2ndQ	9週	インターンシップ機関での実習実施	・環境都市工学分野の学生は土木工学系の職務内容を行う。
		10週	インターンシップ機関での実習実施	・建築学分野の学生は建築学系の職務内容を行う。
		11週	インターンシップ機関での実習実施	
		12週	インターンシップ機関での実習実施	
		13週	インターンシップ機関での実習実施	
		14週	インターンシップ機関での実習実施	
		15週	インターンシップ機関での実習実施	
		16週	実習成果報告会	8月に報告会において成果を発表する

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	4	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4	
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	50	0	0	50	0	100